

投資者の皆様へ

2023年3月13日



商 号 SBIアセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第311号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

3月13日の弊社ファンドの基準価額下落について

平素は弊社ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。
 以下のファンドの基準価額が3月13日に大きく下落しましたので、その要因等についてご報告申し上げます。

1.基準価額及び騰落率(3月13日)

ファンド名称	基準価額	前営業日比	騰落率
SBI・GS NexGen(高成長DX)	3,702 円	▲273 円	▲6.9%
SBI・GS NexGen(先端医療)	6,671 円	▲483 円	▲6.8%

2.基準価額下落の主な要因及び今後の見通し

本レポートに記載のファンドに関する下落要因及び今後の見通しは以下の通りです。

当ファンドの基準価額に影響がありましたのは3月10日の海外市場となります。10日の米国市場では、シリコンバレー銀行(SVB)がカリフォルニア州の金融当局によって閉鎖され、連邦預金保険公社(FDIC)の管理下に置かれたため、リスク回避の動きが強まりました。株価指数は概ね下落しました。SVBの破綻がスタートアップ企業、特にハイテク企業の資金繰り難を象徴するものととらえられたことから、ソフトウェア関連、先端医療関連の銘柄などの下落が大きくなりました。S&P500種指数で見ると、セクター(11分類)は全セクターが下落し、特に、不動産、素材の下落が大きくなりました。セクター(24分類)で見ると、通信セクターを除く全セクターが下落しました。特に、利上げによる調達コストの上昇等の悪影響が懸念される不動産をはじめ、各種金融、素材、ソフトウェアなどの下落が大きくなりました。米国国債利回りは20bps強の大幅低下、米ドル為替レートは、円高ドル安(ドル円仲値で見ると、10日から13日に1.23%上昇)となりました。

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

10日は、S&P500種指数は、▲1.45%、ダウ工業株30種平均は▲1.07%、ナスダック総合指数は▲1.76%、ラッセル2000種指数は▲2.95%、ラッセル2000種グロース指数は▲3.2%、となりました。米10年国債利回りは、9日の3.9%から10日は3.7%近辺へ低下しました。株式市場の投資家の不安心理を示すとされるVIX指数は、10日は24.8(9日:22.61)と上昇しました。

SVBはベンチャー企業との取引比率が高く、その特殊性から、直接的に他の銀行の破綻に結びくわけではないと考えております。しかしながら、今後、リスク回避的な環境がより強くなったり、企業の資金繰りが悪化して預金引き出しが急増した場合、体力の弱い(現金比率、流動比率の低く、預貸金利鞘が小さく、有価証券の含み損の大きな)銀行が破綻する可能性は否定できないと考えます。また、ベンチャー企業に関しては、同社と銀行取引を行っていたベンチャー企業は多く、これらのベンチャーの資金繰りは悪化傾向にあるため、SVBの破綻が事態の悪化に拍車をかける可能性は高いと懸念しております。しかしながら、直近の発表では、シグネチャー銀行の破綻もあつてか、米政府は全額預金保護を決定したため、とりあえずは信用不安の拡大に歯止めがかけられたと評価しております。引き続き、信用不安の行方、米市場動向、経済指標の推移、FRBの動向、ウクライナ情勢の帰趨を注視してまいります。特に、FRBが今回の破綻を受けて利上げペースを緩和するかどうか、注目しております。

以上

投資信託にかかるリスク

投資信託は、主に国内外の株式・公社債等値動きのある証券を投資対象としますので、組入株式の価格の下落や、組入株式の発行体の財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、その結果、大きく損失を被る場合があります。

また、投資信託は、それぞれの投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

※投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本保証はありません。

お客様に直接・間接にご負担いただく費用等

(お買付時に直接ご負担いただく費用)

- お買付手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)

(途中解約時に直接ご負担いただく費用)

- 信託財産留保額 上限 0.5%

(保有期間中にファンドが負担する費用(間接的にご負担いただく費用))

- 信託報酬 上限 2.2%(税抜 2.0%)

※成功報酬制を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限等を示すことができません。また、上記上限を超える場合があります。

●その他の費用

監査費用、有価証券売買時にかかる売買手数料、信託事務の諸費用等が信託財産から差引かれます。その他の費用は、監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用等につきましては、一般的な投資信託を想定しています。費用の料率につきましては、SBIアセットマネジメント株式会社が運用するすべての投資信託のうち、ご負担いただく費用における上限を記載しております。また、成功報酬を採用する投資信託については、基準価額の水準等により報酬額が変動するため、上限額を超える場合があります。投資信託にかかるリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、必ず該当投資信託の投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、もしくは同時にお受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。